

機能点検

1. 機能点検に関する注意

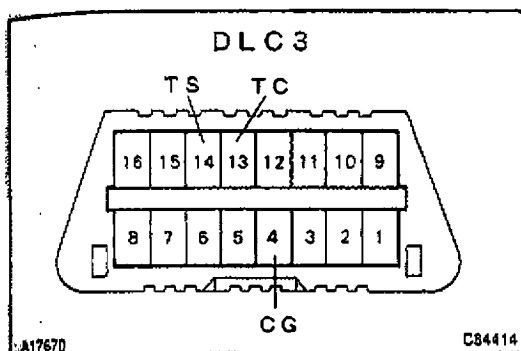
- (a) 点検作業を実施した場合、ダイアグノーシスコードを記憶することがあるので、点検作業終了後、必ずダイアグノーシスコード記憶の消去を行い正常コードが出力されることを確認する。

2. ウォーニングランプ点検

- (a) イグニッションスイッチをONにする。

基準

約3秒間ABSウォーニングランプおよびブレーキウォーニングランプが点灯し、その後消灯する



3. テストモード点検 (ABSウォーニングランプ表示)

- (a) IGスイッチをOFFにし、シフトポジションをPレンジにする。

- (b) テストモード起動 (S2000)

- (1) IGスイッチをOFFにして、DLC3にSSTをセットする。

SST 09991-60101, (09991-60300)

- (2) IGスイッチON後、SSTの画面表示に従って操作し、通常モード→テストモードに切り替える。

- (c) テストモード起動 (DLC3)

- (1) SSTを使用して、DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間を短絡する。

SST 09843-18040

- (d) IGスイッチON

- (1) テストモードになっていることをABSウォーニングランプで確認 (0.18秒間隔で点滅)

- (e) 失陥判定点検

- (1) IGスイッチON (エンジンOFF) で、約59N {6kgf} 以上の踏力で1秒以上ブレーキペダルを踏み続ける。

- (2) ブレーキランプが点灯し、ABSモーターの作動音がすることを確認する。

<参考>

エンジン始動時に再検査する場合は、テストモード終了/テストモード移行をし、ポンピングブレーキでブースタ負圧を抜いておく。

- (3) エンジンを始動し、約59N {6kgf} 以上の踏力でブレーキペダルを踏みブレーキランプが消灯することを確認する。

- (f) マスターシリンダー圧力センサーのゼロ点電圧チェック

- (1) ブレーキペダルを1秒以上開放する。

- (g) マスターシリンダー圧力センサー出力電圧チェック

- (1) 車両停止状態でブレーキペダルを98N {10kgf} 以上で1秒以上強く踏み込む。

- (2) 車両停止状態でブレーキペダルを離す。

- (3) 車両停止状態でブレーキペダルを1回以上速く踏み込み、ABSウォーニングランプが3秒間常灯することを確認する。

<参考>

ABSウォーニングランプが常灯するまで何度も繰り返す。

(h) 走行テスト

<注意>

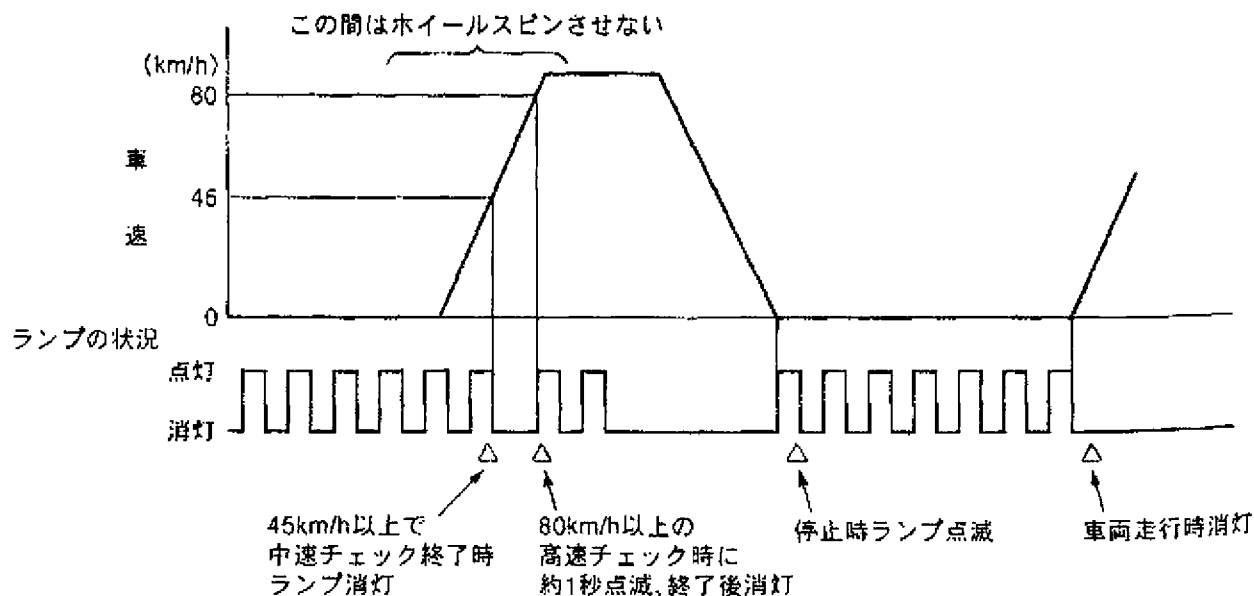
- 直進状態でホイールスピンさせずに各速度で走行し、ABSウォーニングランプの点滅および点灯状態を確認する。
- ホイールスピンさせた場合、スピードセンサチェックが終了しないことがある。
- 操舵した状態で、センサチェックを開始すると、中車速 (45~80km/h) チェック後、「ABS」ランプが消灯しない場合がある。

<参考>

- スピードセンサ機能点検が正常に終了した場合、「ABS」ウォーニングランプは消灯するが、車両を停止すると、0.13秒間隔で点検する。
- 不良箇所がある場合、「ABS」ウォーニングランプは常灯し、ダイアグノーシスコードを記憶する。
- ウォーニングランプで正常か異常の判定はできないので、走行テスト終了後、必ずテストモードコード表示でコードの確認をする。

点検項目	センサー出力 電圧点検	センサー出力 電圧変動点検	センサー出力 (高速) 電圧変動点検
車速 [km/h]	0 ~ 10	45 ~ 80	80 ~
ウォーニング ランプ状態	点滅	点滅 (異常) 消灯 (正常)	点滅 (異常) 1秒点滅→消灯 (正常)

スピードセンサチェック時のランプ状況 (正常時)



(i) デセレーションセンサチェック (4WD)

- (1) ブレーキング、車両傾けなどにより、減速度を発生させ、ABSウォーニングランプの点灯を確認する。

<参考>

デセレーションセンサが正常な場合、前後方向に約0.2~0.4 Gの減速度が発生しているとき、ABSウォーニングランプが点灯する。

(j) センサーチェック終了

- (1) センサーチェックが正常に終了した場合、ABSウォーニングランプが車両停止中は点滅状態、車両走行中は消灯状態となる。

<注意>

- すべてのセンサチェックが終了した時、センサチェック終了となる。
- センサチェック未終了およびセンサに異常がある場合は、走行中も点滅のままになる。
- センサチェック未終了およびセンサに異常がある場合は、ABSは作動しない。

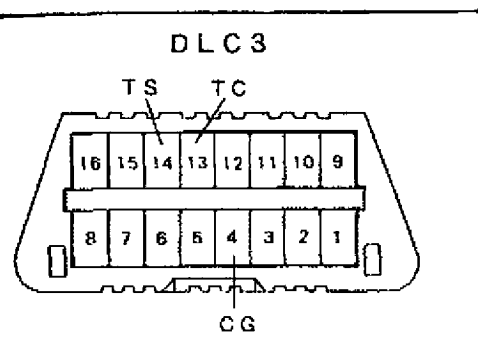
(k) センサチェックコード確認 (S2000)

- (1) IGスイッチON後、SSTの画面表示に従って操作し、センサチェックコードを読み取る。

(i) センサチェックコード確認 (DLC3)

- (1) DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) を短絡したまま、13 (TC) ⇔ 4 (CG) 端子間を短絡する。

SST 09843-18040



(2) ABSウォーニングランプの点滅状態により、システム状態を確認する。

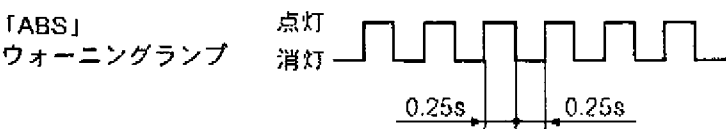
<参考>

- 異常コードが1つの場合は、4秒の間隔において同一コードを繰り返し出力し、複数の場合は異なるコードを2.5秒間隔で出力し、一巡すると4秒の間隔において繰り返し出力する。
- 異常コードが複数の場合は、コード番号の小さいものから順に出力する。

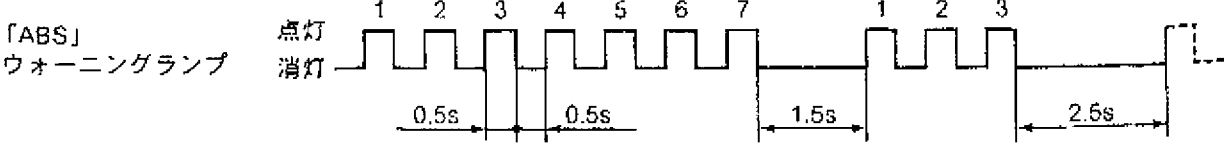
SAEコード番号	ランプコード番号	診断内容
C1271	71	F r R Hスピードセンサ出力電圧異常
C1272	72	F r L Hスピードセンサ出力電圧異常
C1273	73	R r R Hスピードセンサ出力電圧異常
C1274	74	R r L Hスピードセンサ出力電圧異常
C1275	75	F r R Hスピードセンサ出力周期異常
C1276	76	F r L Hスピードセンサ出力周期異常
C1277	77	R r R Hスピードセンサ出力周期異常
C1278	78	R r L Hスピードセンサ出力周期異常
C1279 (4WD)	79 (4WD)	デセラセーションセンサ出力電圧異常
C1281	81	マスタ圧センサ異常

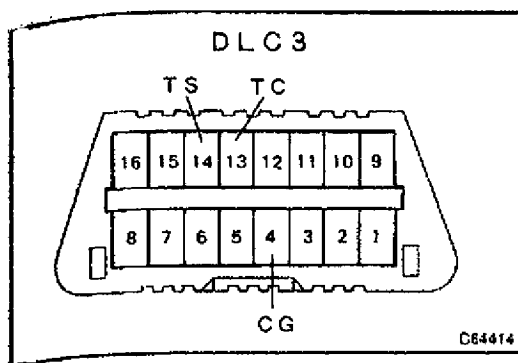
「ABS」ウォーニングランプ点滅状態

(正常コード・・・センサチェック終了、システム正常)



(異常コード 例「73」)





- (3) エンジンを停止し、DLC3の13 (TC) ⇄ 4 (CG) 端子間を開放する。
- (m) テストモード終了 (S2000)
- (1) SSTの画面表示に従って、テストモード→通常モードに切り替える。
- (n) テストモード終了 (DLC3)
- (1) IGスイッチをOFFにする。
- (2) DLC3の14 (TS) ⇄ 4 (CG) および13 (TC) ⇄ 4 (CG) 端子間を開放する。
- (3) IGスイッチをONにする。

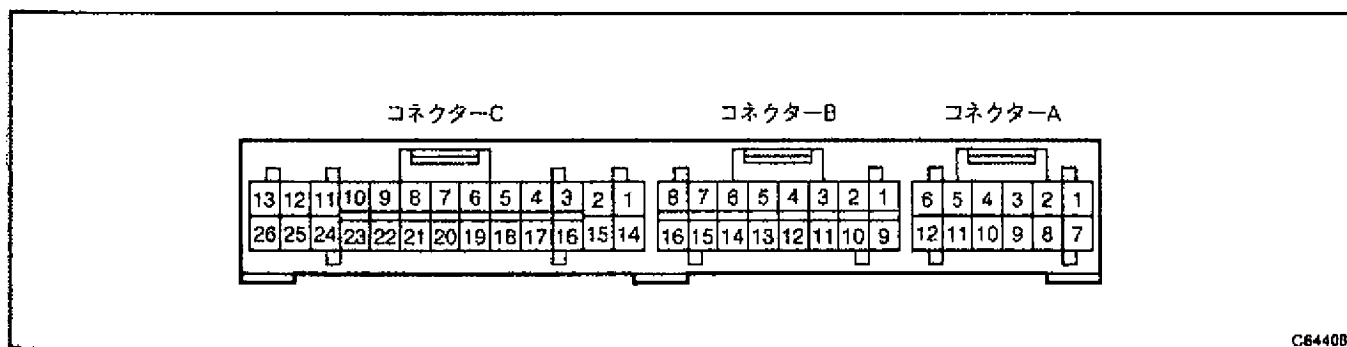
4. スキッドコントロールコンピュータ点検 (2WD)

- (a) 作動点検
- (1) SSTを使用して、各端子間または各端子とボデーアース間を測定する。
- SST 09082-00030, 09083-00150
- (2) SSTを使用して、通信状態を確認する。
- SST 09991-60101 (09991-60300)
- (3) オシロスコープを使用して、各端子間または各端子とボデーアース間のパルスが発生していることを確認する。

計器 オシロスコープ

<注意>

- コネクタはコンピュータに接続したまま、コネクタの裏側から点検する。
- ABSウォーニングランプ点灯時（故障時）は、フェールセーフ機能によりブレーキアクチュエータ関係端子が0Vとなる。



基準

コネクタ-A

端子番号	端子記号 (端子名称)	測定 項目	テスター接続	測定条件	基準値
1	SFRR (FrRH減圧ソレノイド出力)	電圧	A1~C15	IGスイッチON後、 約1.5秒経過時	10~14V
2	SFRH (FrRH保持ソレノイド出力)	電圧	A2~C15	IGスイッチON後、 約1.5秒経過時	10~14V
3	SRMF (SRMFソレノイド出力)	電圧	A3~C15	IGスイッチON後、 約1.5秒経過時	10~14V

注意事項

1. 注意事項

(a) 取り扱い、作業上の注意

- (1) 点検方法として特に指定のない限り、コンピュータ、アクチュエータおよび各センサ等の取りはずし、または取り付けは必ずイグニッションスイッチOFFの状態で行う。
- (2) コンピュータ、アクチュエータおよび各センサ等の取りはずしまたは、取り付けの作業を行った時は、テストモード点検を実施し、最後に必ずダイアグノーシスコードを出力し、正常コードになっていることを確認する。

(b) 一部ダイアグノーシスコードに関する注意

- (1) 下表のダイアグノーシスコードについては、故障部位の修理のみではウォーニングは解除されない。

車種	ダイアグノーシスコード
クラウン	C0273、C0200、C0205、C0210、C0215、 C1235、C1236、C1238、C1239、C1251 (13、31、32、33、34、35、36、38、39、51)
クラウンマジェスタ	C0200、C0205、C0210、C0215、C1235、C1236、 C1238、C1239 (31、32、33、34、35、36、38、39)

- (2) ウォーニングランプ点灯を解除するには、ダイアグノーシスコード消去作業を行う。

<注意>

現在発生中のダイアグコードは、再記憶されている。

2. フェイルセーフ機能

- (a) ABS・TRC・VSC・ブレーキアシストシステムおよびハイドロブースターの一部に異常が発生した場合、各ウォーニングランプ（ABS、TRC OFF、VSC、ブレーキ）を点灯し、同時にABS・TRC・VSC・ブレーキアシストの作動を中止し、通常のブレーキに戻る。

3. ドラムテスター使用時の注意

- (a) ドラムテスターを使用する場合は、VSCの作動を禁止させるために必ずイグニッションスイッチOFFでDLC3の14 (TS) ⇄ 4 (CG) 端子間を接続したままエンジンを始動し、測定を行う。

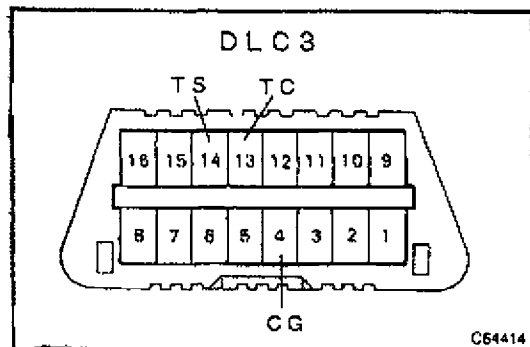
SST 09843-18040

<注意>

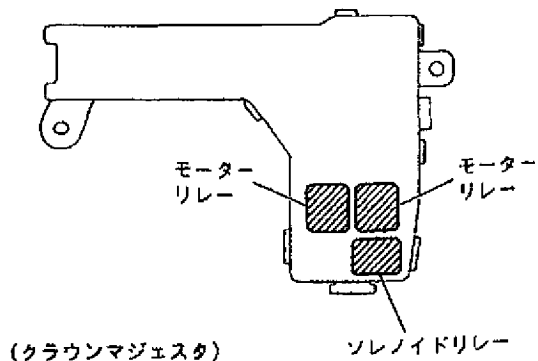
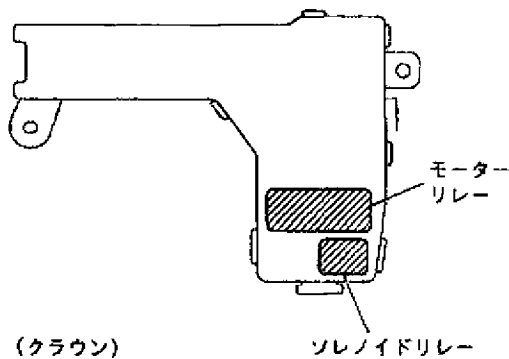
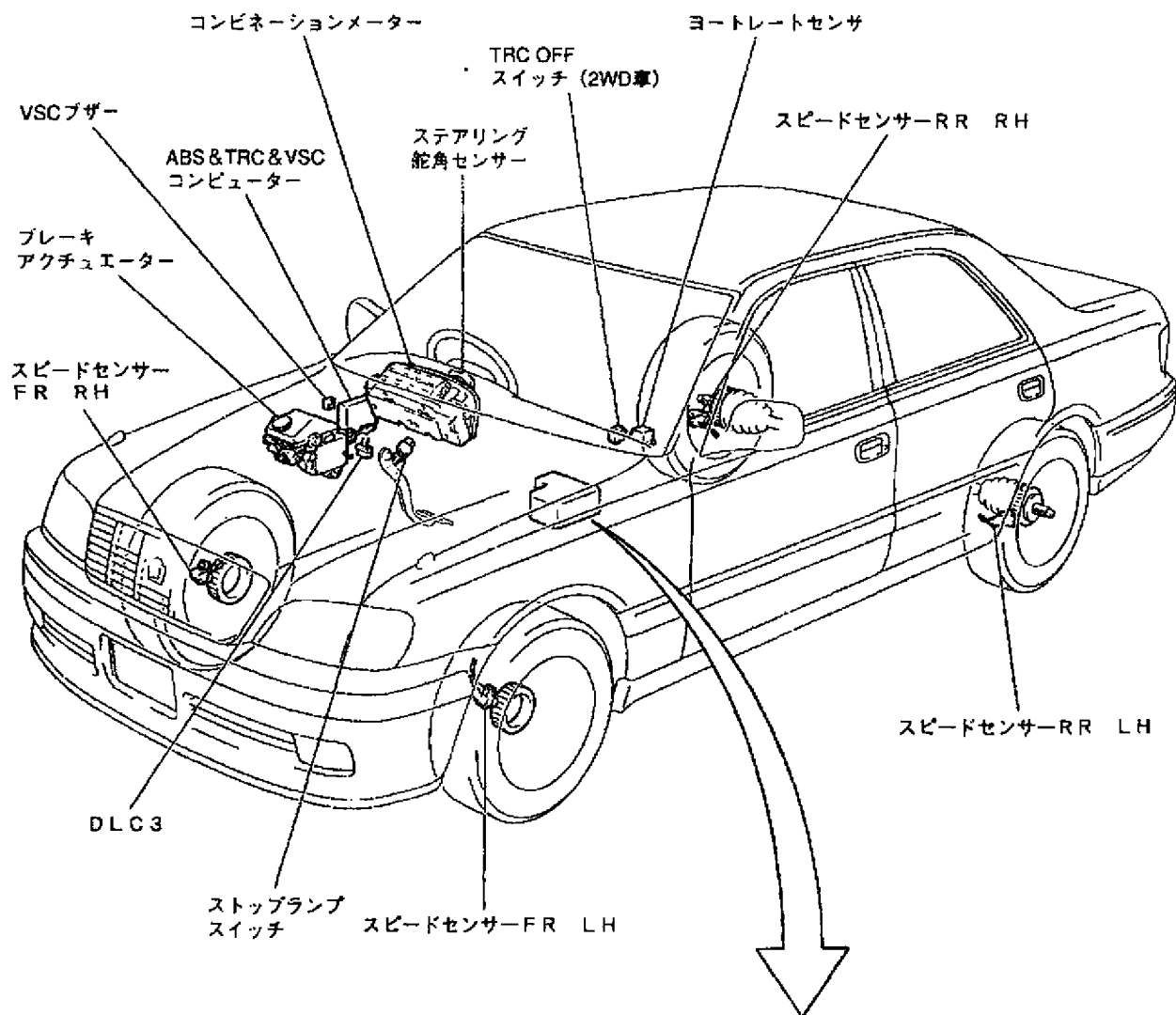
- VSCウォーニングランプが点滅していることを確認する。(テストモード中か確認)
- ロックチェーンで車両を固定する。

4. 脱着、点検時の注意

- (a) VSC関連部品は、脱着により調整が狂うおそれがあるため、必要時以外脱着をしない。
- (b) VSC関連の作業を行う場合は、本文の指示に従って作業前準備、作業完了の確認などを確実に行う。



部品配置図



回路図

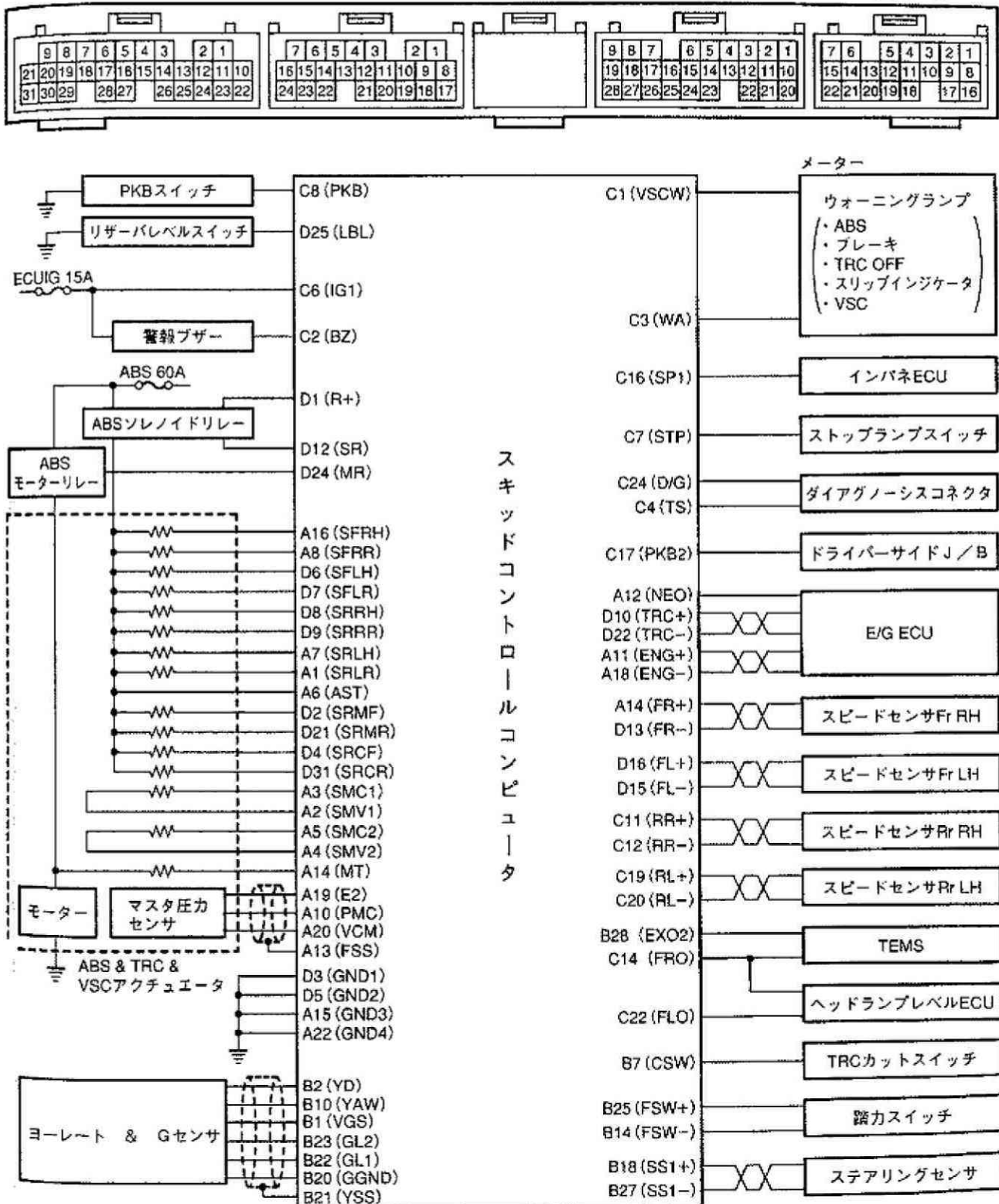
クラウン

コネクタ-D

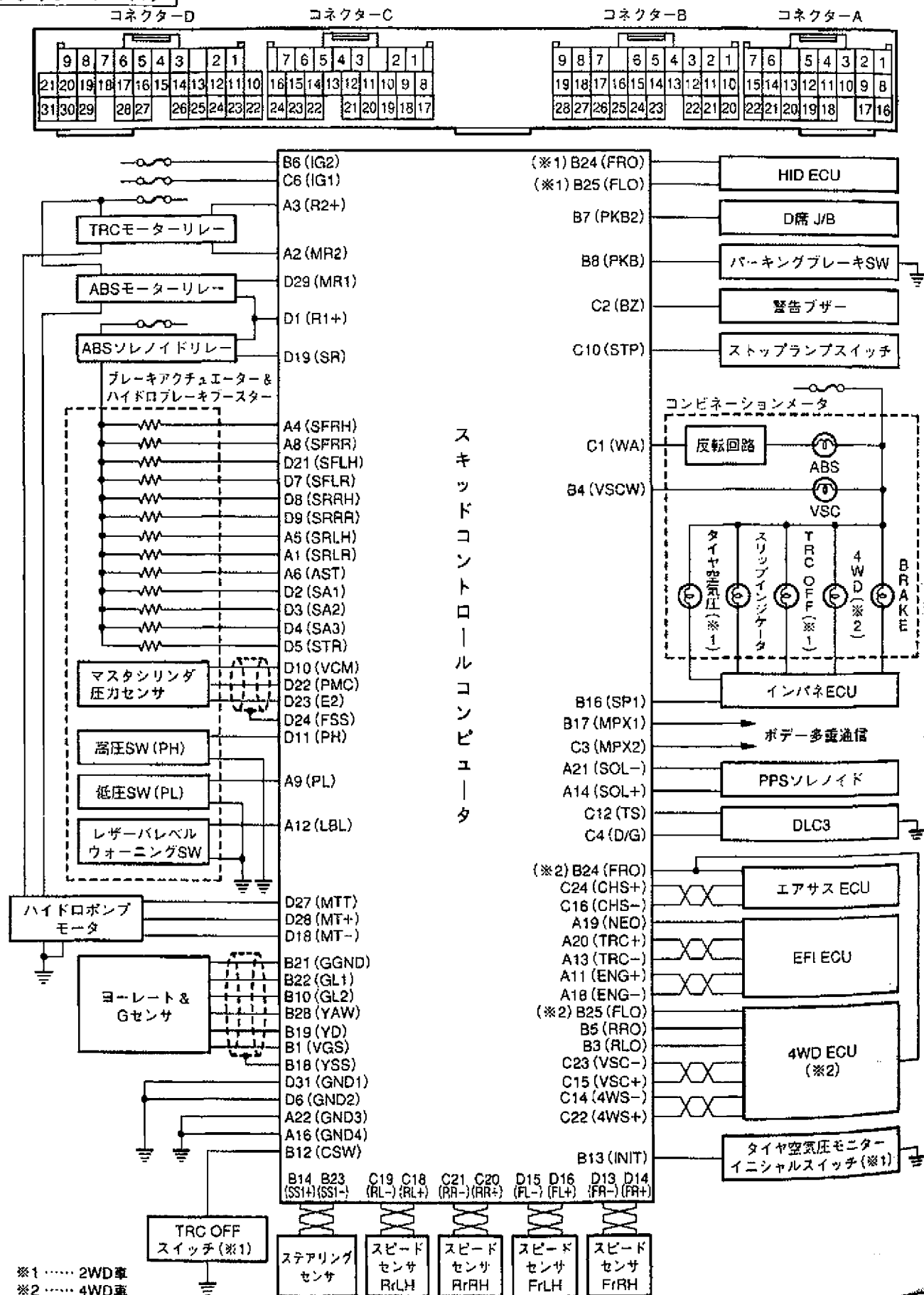
コネクタ-C

コネクタ-B

コネクタ-A

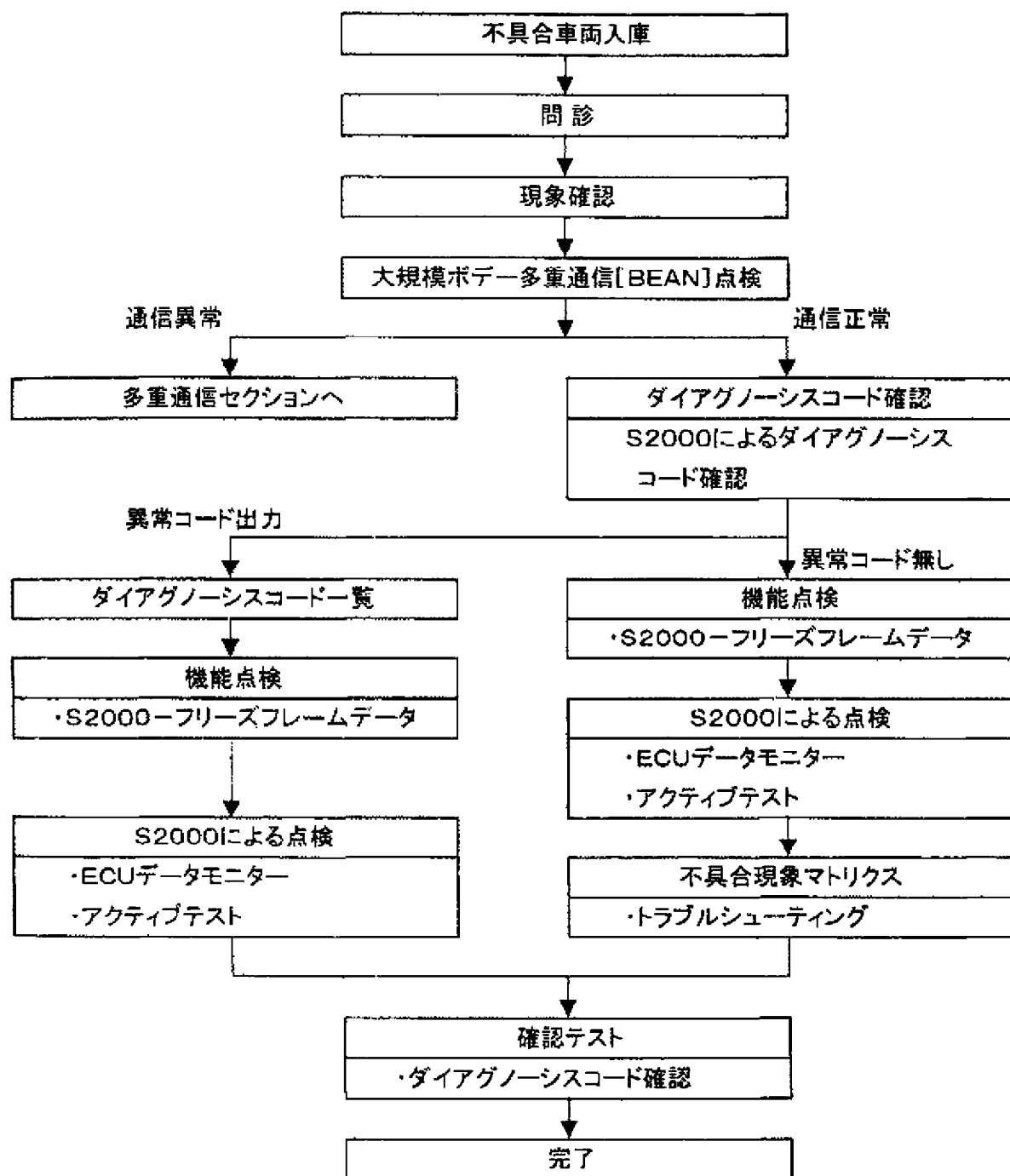


クラウンマジェスタ



トラブルシューティングの進め方

1. トラブルシューティングの進め方



2. フリーズフレームデータ出力について

- (a) S2000を使用して、ABS、VSC、TRC、BA作動時とダイアグノーシスコード異常発生時の車両（センサー）状況の記憶を表示させることができる。
- (b) フリーズフレームデータは1回のデータのみ記憶し、ABS、VSC、TRC、BA作動時のフリーズフレームデータは、常に新しいデータに更新される。また、フリーズフレームデータ記憶後のIGスイッチONの回数を、31回まで記憶し表示する。

<注意>

IGスイッチONの回数が、31回を超えた場合は「31」を表示する。

- (c) ダイアグノーシスコード異常発生時の場合は、異常発生時のフリーズフレームデータが記憶され、ABS、VSC、TRC、BA作動時のデータは消去される。

3. ダイアグノーシスコード出力点検 (S2000)

- (a) SSTをダイアグノーシスコネクターに接続する。

SST 09991-60101, 09991-60300

- (b) IGスイッチON後、S2000の表示画面に従って、ダイアグノーシスコードを読み取る。

<注意>

異常がある場合は修理後ダイアグノーシスコードの記憶を消去する。

4. ダイアグノーシスコード出力点検 (ウォーニングランプ)

- (a) SSTを使用して、DLC3の13 (TC) ⇔ 4 (CG) 端子間を短絡する。

SST 09843-18040

<注意>

- コネクターの接続位置を間違えると故障の原因となるため絶対に間違えない。
- 車両停止状態で行う。

- (b) イグニッションスイッチをONにして、ABSウォーニングランプおよびVSCウォーニングランプの点滅回数を読み取る。

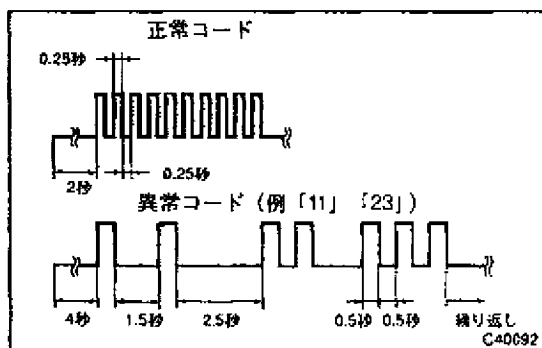
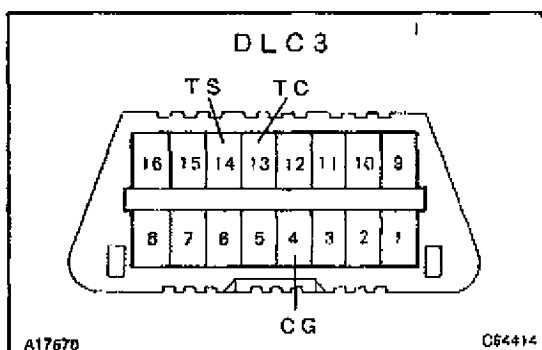
<参考>

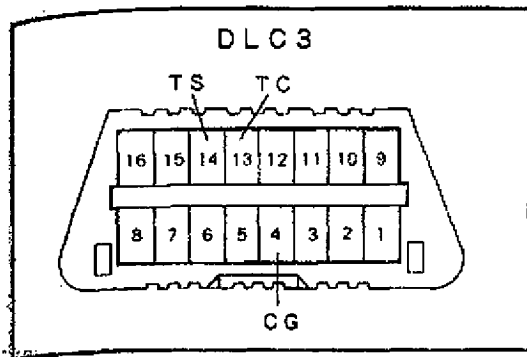
- 正常な場合は0.25秒点灯、0.25秒消灯を繰り返す
- 異常コードが1つの場合は4秒の間隔を置いて、同コードを出力し、複数のコードを出力する場合は異なるコードを2.5秒間隔で出力し、一巡すると4秒の間隔を置いて再度出力する。
- 複数のコードを出力する場合は、コード番号の小さいものから順に出力する。

- (c) DLC3の13 (TC) ⇔ 4 (CG) 端子間を開放する。

<注意>

異常がある場合は、修理後ダイアグノーシスコードの記憶を消去する。





5. ダイアグノーシスコード記憶消去 (S2000)

- (a) SSTをダイアグノーシスコネクターに接続する。

SST 09991-60101, 09991-60300

- (b) IGスイッチON後、S2000の表示画面に従ってダイアグノーシスコードを消去する。

6. ダイアグノーシスコード、ブリーズフレームデータ記憶消去 (DLC3)

- (a) ダイアグノーシスコード消去方法

- (1) IGスイッチOFFの状態で、DLC3の13) (TC) ⇔ 4) (CG) 端子間を短絡し、IGスイッチをONにする

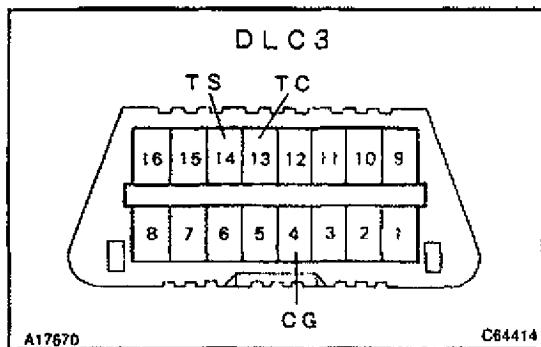
<参考>

故障が継続している時は、消去できない場合がある。

- (2) 5秒間に8回以上ブレーキペダルを踏み込む。
(3) 正常コードが出力されていることを確認する。

点検要領

1. ABSウォーニングランプ消灯点検
 - (a) IGスイッチOFF後、スキッドコントロールコンピュータのコネクターを切り離す。
 - (b) IGスイッチをONにした時、ABSウォーニングランプが消灯することを確認する。



2. ダイアグノーシスコード出力点検
 - (a) SSTを使用して、DLC3の13 (TC) ~ 4 (CG) 端子間を短絡する。
 - (b) IGスイッチONでABSウォーニングランプがダイアグノーシスコード (異常コードまたは正常コード) を出力することを確認する。
3. TRC OFFスイッチ点検
 - (a) TRC OFFスイッチを1回押した時、TRC OFFランプが消灯することを確認する。
4. VSCウォーニングランプ消灯点検
 - (a) IGスイッチOFF後、スキッドコントロールコンピュータのコネクターを切り離す。
 - (b) IGスイッチをONにした時、VSCウォーニングランプが消灯することを確認する。
5. ブレーキウォーニングランプ消灯点検
 - (a) IGスイッチOFF後、スキッドコントロールコンピュータのコネクターを切り離す。
 - (b) IGスイッチをONにした時、ブレーキウォーニングランプが消灯することを確認する。

機能点検

1. 機能点検に関する注意

- (a) 点検作業を実施した場合、ダイアグノーシスコードを記憶することがあるので、点検作業終了後、必ずダイアグノーシスコード記憶の消去を行い正常コードが出力されることを確認する。
- (b) コンピューター、アクチュエータおよび各センサ等の取りはずし、または取り付け作業を行った時は、テストモード点検を実施し、最後に必ずダイアグノーシスコードを出力し、正常コードになっていることを確認する。

2. ウォーニングランプ、インジケータ点検（クラウン）

- (a) パーキングブレーキを解除した状態で、1 GスイッチをONにする。

基準

約3秒間ABSウォーニングランプ、ブレーキウォーニングランプ、VSCウォーニングランプ、TRC OFFランプ（2WD車）、スリップインジケータが点灯し、その後消灯する

3. ウォーニングランプ、インジケータ点検（クラウンマジエスタ）

- (a) パーキングブレーキを解除した状態で、1 GスイッチをONにする。

基準

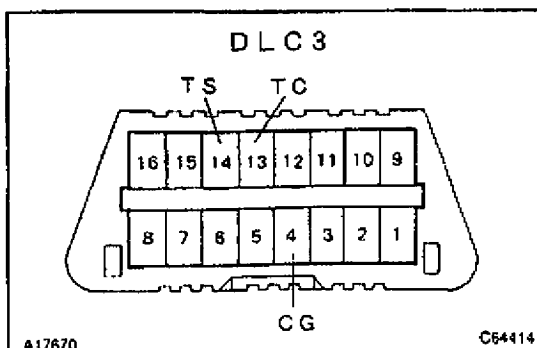
約3秒間ABSウォーニングランプ、VSCウォーニングランプ、TRC OFFランプ（2WD車）、スリップインジケータが点灯し、その後消灯する

4. ブレーキウォーニングランプ、ブザー作動点検

<注意>

イグニッションスイッチON後、90秒以上経過後、点検を行う。

- (a) ホイールに輪止めをし、エンジンを始動する。
- (b) パーキングブレーキペダルを解除し、ブレーキペダルを連続してペダリング（フルストローク）したとき、10秒間に15～20回で、ブレーキウォーニングランプが点灯し、ブザーが鳴ることを確認する。



5. テストモード点検 (ABS)
 - (a) IGスイッチをOFFにし、シフトポジションをPレンジにする。
 - (b) テストモード起動 (S2000)
 - (1) IGスイッチをOFFにし、SSTをDLC3に接続する。
SST 09991-60101(09991-60300)
 - (2) SSTの画面表示に従い、通常モード→テストモードに切り替える。
 - (c) テストモード起動 (DLC3)
 - (1) SSTを使用して、DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間を短絡する。
SST 09843-18040
 - (d) IGスイッチON
 - (1) テストモードになっていることをABSウォーニングランプで確認 (0.13秒間隔で点滅)
 - (e) 失陥判定点検 (クラウン)
 - (1) IGスイッチON (エンジンOFF) で、約59N (6kgf) 以上の踏力で1秒以上ブレーキペダルを踏み続ける。
 - (2) ブレーキランプが点灯し、ABSモーターの作動音がすることを確認する。

<参考>
エンジン始動時に再検査する場合は、テストモード終了/テストモード移行をし、ポンピングブレーキでブースタ負圧を抜いておく。

 - (3) エンジンを始動し、約59N (6kgf) 以上の踏力でブレーキペダルを踏みブレーキランプが消灯することを確認する。
- (f) マスターシリンダー圧力センサーのゼロ点電圧チェック
 - (1) ブレーキペダルを1秒以上開放する。
- (g) マスターシリンダー圧力センサー出力電圧チェック
 - (1) 車両停止状態でブレーキペダルを98N (10kgf) 以上で1秒以上強く踏み込む。
 - (2) 車両停止状態でブレーキペダルを離す。
 - (3) 車両停止状態でブレーキペダルを1回以上速く踏み込み、ABSウォーニングランプが3秒間常灯するのを確認する。

<参考>
ABSウォーニングランプが常灯するまで、何度も繰り返す

(h) 走行テスト

<注意>

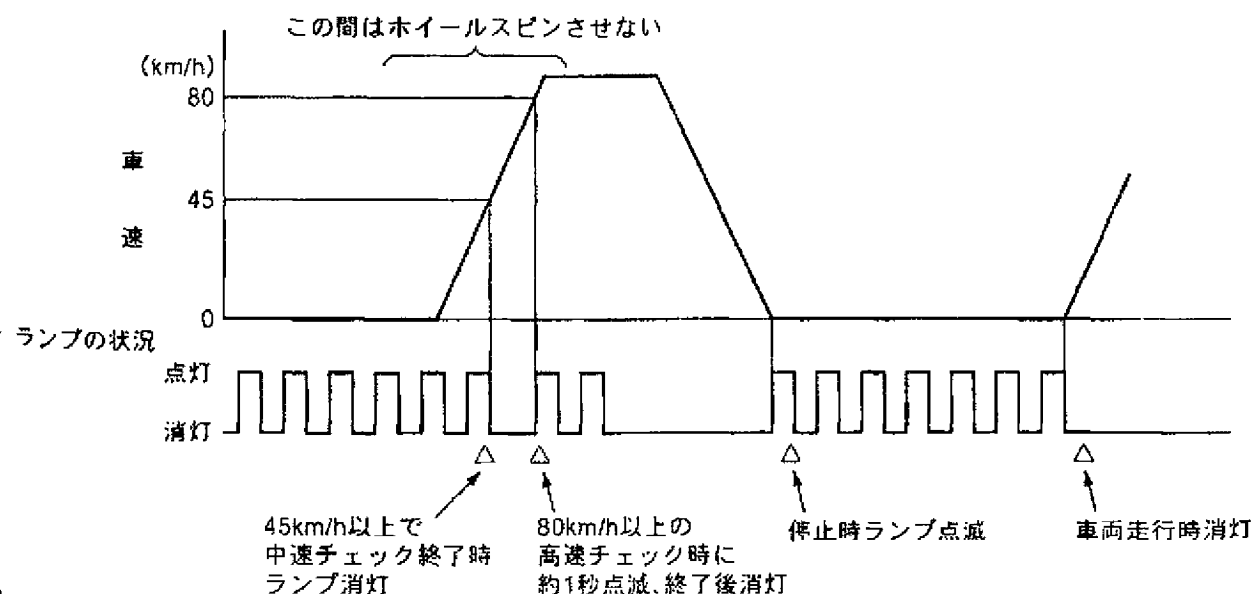
- 直進状態でホイールスピンさせずに各速度で走行し、ABSウォーニングランプの点滅および点灯状態を点検する。
- ホイールスピンさせた場合、スピードセンサチェックが終了しないことがある。
- 操舵した状態で、センサチェックを開始すると、中車速 (45~80km/h) チェック後、「ABS」ランプが消灯しない場合がある。

<参考>

- スピードセンサ機能点検が正常に終了した場合、「ABS」ウォーニングランプは消灯するが、車両を停止すると、0.13秒間隔で点検する。
- 不良箇所がある場合、「ABS」ウォーニングランプは常灯し、ダイアグノーシスコードを記憶する。
- ウォーニングランプで正常か異常の判定はできないので、走行テスト終了後、必ずテストモードコード表示でコードの確認をする。

点検項目	センサー出力 電圧点検	センサー出力 電圧変動点検	センサー出力 (高速) 電圧変動点検
車速 [km/h]	0 ~ 10	45 ~ 80	80 ~
ウォーニング ランプ状態	点滅	点滅 (異常) 消灯 (正常)	点滅 (異常) 1秒点滅→消灯 (正常)

スピードセンサチェック時のランプ状況 (正常時)



(i) テストモードコード表示

- (1) ダイアグノーシスコード一覧表より診断内容を読み取る。

<注意>

ダイアグノーシスコネクターの14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間の短絡を開放しない。

<参考>

通常のダイアグノーシスコードも表示される。

(j) テストモード解除 (S2000)

- (1) SST画面表示に従い、テストモード→通常モードに切り替える。

(k) テストモード解除 (DLC3)

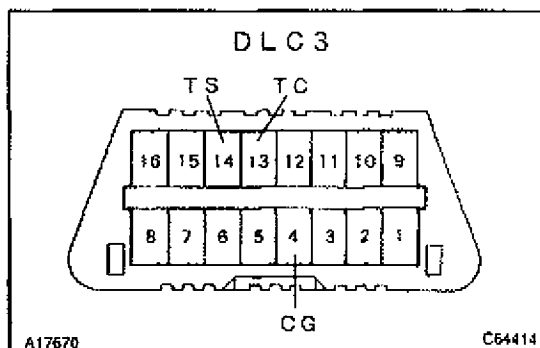
- (1) DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間の短絡を開放する。

<参考>

- テストモードにすると各足まわり制御システム全てテストモードになる。
- テストモードに入ると、全コードを一度記憶し、点検時にコンピューターが正常と判定すると記憶を消去する。
- 点検しない他のシステムのテストモードを解除すれば、記憶は消去される。

(l) ABSセンサチェック終了状態

- (1) センサチェックが正常に終了した場合は、ABSウォーニングランプが車両停止中は点滅（テストモード表示）し、車両走行中は消灯する。



6. テストモード点検 (VSC)

- (a) シフトポジションをPレンジにし、1GスイッチをOFFにする。

(b) テストモード起動 (S2000)

- (1) 1GスイッチをOFFにし、SSTをDLC3に接続する。
-
- SST 09991-60101(09991-60300)

- (2) SSTの画面表示に従い、通常モード→テストモードに切り替える。

(c) テストモード起動 (DLC3)

- (1) SSTを使用して、DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間を短絡する。

SST 09843-18040

(d) 1GスイッチON

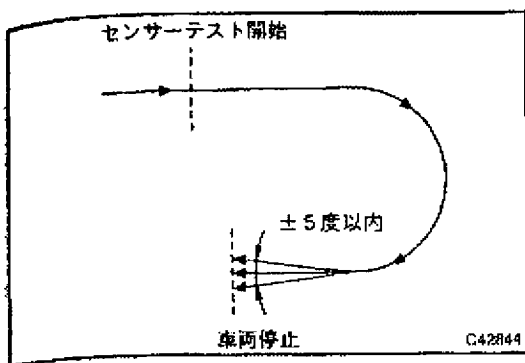
- (1) テストモードになっていることをVSCウォーニングランプで確認 (0.13秒間隔で点滅)

(e) ヨーレートセンサ0点およびデセラレーションセンサ0点チェック

- (1) シフトポジションをPレンジ位置にし、1GスイッチOFFからONにする。
- (2) 平坦な場所で車両を1秒以上停止させた後、シフトポジションをPレンジ以外にする。

(f) ステアリングセンサーチェック

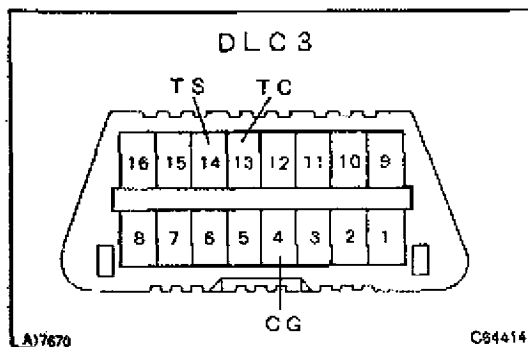
- (1) ステアリングをフルロックした後、直進状態にする。



- (g) ヨーレートセンサーの出力電圧チェック
- (1) Dレンジにシフトし、ステアリングをフルロック操舵で旋回走行（左右どちらか）180±5度を行う。
- (h) 車両停止
- (i) 点検終了確認
- (1) シフトレバーをPレンジ位置にし、ブザーが3秒間鳴ることを確認する。
 <参考>
 ブザーが鳴らない場合はやり直す。
- (j) テストモード表示
- (1) テストモードコード一覧表より診断内容を読み取る。
 <注意>
 DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間の短絡を開放しない。
 <参考>
 通常のダイアグノーシスコードも表示される。

7. テストモード終了

- (a) テストモード終了 (S2000)
- (1) SSTの画面表示に従い、テストモード→通常モードに切り替える。
- (b) テストモード終了 (DLC3)
- (1) IGスイッチをOFFにする。
 - (2) DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間の短絡を開放する。
 - (3) IGスイッチをONにする。
 <注意>
 異常コードが表示された場合は不具合箇所を修理し、ダイアグノーシスコード記憶消去を行う。
 ABSウォーニングランプが常灯するまで何度も繰り返す。



8. ヨーレートセンサゼロ点調整 (クラウン)

- (a) ヨーレートセンサー取り付け終了後、パーキングブレーキをかけてシフトレバーをPレンジにする。
- (b) SSTをDLC3に接続し、イグニッションスイッチをONにする。
 SST 09991-60101(09991-60300)
- (c) SSTの画面表示に従い、バックアップメモリを消去する。
- (d) ゼロ点調整記憶が消去されると、VSCウォーニングランプが点灯する。

<参考>

- DLC3の14 (TS) ⇔ 4 (CG) 端子間を8秒間に4回以上短絡⇔開放を繰り返し、ゼロ点記憶値が消去する方法も可能。
- 14 (TS) ⇔ 4 (CG) の操作をすると、ABSウォーニングランプは、ダイアグノーシスコードを出力し、その後VSCウォーニングが15秒間点灯後、ダイアグコードを出力する。

- (e) ヨーレートセンサーゼロ点調整が完了したことを確認する。(VSCウォーニングランプ、TRC OFFランプが消灯するとゼロ点調整が完了)

＜注意＞

- ・ 約15秒間は車両を動かしたり、揺れを加えない。
- ・ 記憶しているダイアグコードも消去される。
- ・ IGスイッチONでE/Gは停止状態で行う。

9. スキッドコントロールコンピュータ点検 (クラウン)

(a) バッテリー電圧点検

- (1) SSTを使用して、バッテリー電圧を点検する。

SST 09082-00030, 09083-00150

基準値

10~14V

(b) 作動点検

- (1) SSTを使用して、各端子間または各端子とボデーアース間を測定する。

SST 09082-00030, 09083-00150

- (2) SSTを使用して、通信状態を確認する。

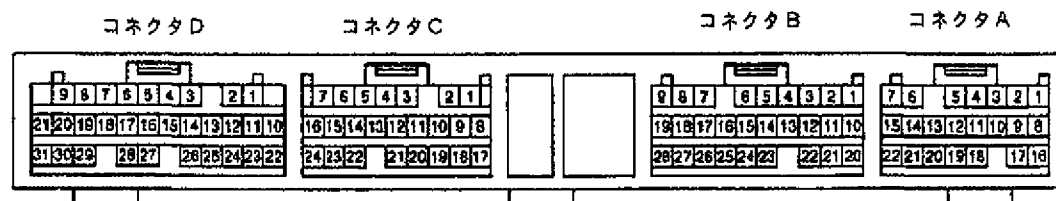
SST 09991-60101 (09991-60300)

- (3) オシロスコープを使用して、各端子間または各端子とボデーアース間のパルスが発生していることを確認する。

計器 オシロスコープ

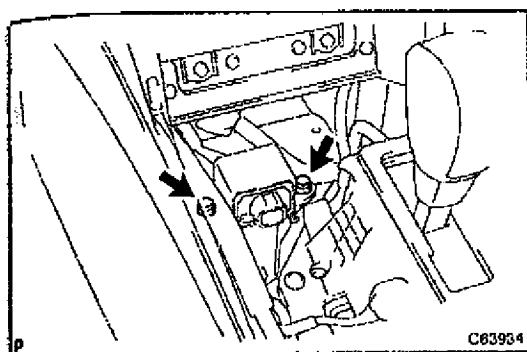
＜注意＞

- ・ コネクタはコンピュータに接続したまま、コネクタの裏側から点検する。
- ・ ABSウォーニングランプ点灯時（故障時）はフェイルセーフ機能によりブレーキアクチュエータ関係端子が0Vとなる。



取替

1. コンソールパネル UPR取りはずし [58804A] (要領はID-3参照)
2. ヨーレートセンサ取りはずし [89183A/8414]
- (a) コネクタを、ヨーレートセンサから切り離す。



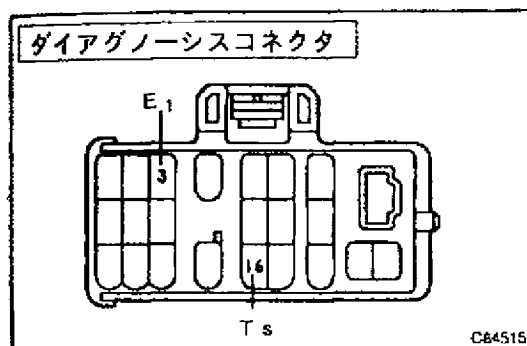
- (b) ボルト2本をはずし、ヨーレートセンサを取りはずす。
3. ヨーレートセンサ取り付け [89183A/8414]
- (a) ボルト2本で、ヨーレートセンサを取り付ける。

計器 トルクレンチ [20110]

基準値

$$T = 13.3 \text{ N} \cdot \text{m} \quad \{135 \text{ kgf} \cdot \text{cm}\}$$

- (b) コネクタを、ヨーレートセンサに接続する。
4. コンソールパネル UPR取り付け [58804A]



5. ヨーレートセンサゼロ点調整 (ヨーレートセンサ交換時のみ)

- (a) ヨーレートセンサ取り付け終了後、パーキングブレーキをかけてシフトレバーをPレンジにし、イグニッションスイッチをONにする。
- (b) S2000を使用して、ゼロ点記憶値が消去 ("バックアップメモリ消去" にて消去) されると、VSCウォーニングランプが点灯することを確認する。

SST 09843-18040, 09843-18020

- (c) ヨーレートセンサゼロ点調整が完了したことを確認する。(VSCウォーニングランプ、が消灯するとゼロ点調整が完了)

SST 09991-60101, 09991-60300

<注意>

- ・ 約15秒間は車両を動かしたり、揺れを加えない。
- ・ 記憶しているダイアグノーシスコードも消去される。

<参考>

- ・ S2000を使用する代わりにSSTを使用して、ダイアグノーシスコネクタの16 (TS) ⇄ 3 (E1) 端子間またはDLC3の14 (TS) ⇄ 4 (CG) 端子間に8秒間に4回以上短絡⇄開放を繰り返して調整可能です。
- ・ 16 (TS) ⇄ 3 (E1) の操作をすると、ABSウォーニングランプ、ストップインジケータランプ、ブレーキウォーニングランプを3秒間点灯し、その後点滅します。(テストモード時、イグニッションスイッチONしたときのランプチェックと同じ動き) 16 (TS) ⇄ 3 (E1) を操作後、開放したままにするとVSCウォーニングランプとTRC OFFランプが15秒間点灯します。

